

纖維製品配給消費統制規則制定
ニ伴フ警防用被服取扱ニ關スル件

昭和十七年一月二十日商工省令第四號纖維
製品配給消費統制規則公布 即日施行
ニ依リ切符制實施相成候處從來特
殊ノ取扱ニ依リ配給シ来リタル衣類
ハ警防業務ニ從事ス各團體員が服制

ニ基キ其ノ使命達成ノ為業務遂行ノ場合ノ
着用スルモノニ有之私生活ト切離シ考慮セラルベキ
モノト思料セラレ候ニ就テハ商工省規定品目中
ヨリ除外相成様御措置相煩度此段及照
會候

記

一 警防團員制服及作業衣

大日本帝國政府

案

防空監視隊員及特設防護團員ノ制服等ヲ衣料切符制ヨリ除外セシムルハ左ノ各號ニ該當スルモノナルコト

一 防空監視隊

イ、道府縣、市町村等ニ於テ調製シ又ハ斡旋シテ調製スル場合ニ限ルコト

ロ、主トシテ防空監視隊ノ勤務ニ際シ着用スル目的ヲ以テ調製スルモノニ限ルコト

二 特設防護團

イ、特設防護團トシテ特別ノ服制ノ定アルモノニ限ルコト

從ツテ一般作業服ヲ以テ特設防護團員トシテ勤務ヲ爲サシムル如キモノハ之ヲ包含セザルコト

ロ、定員ノ定アルモノニ限り且其ノ範圍内ニ於テ必要ナル限度ニ止ムルコト

モ、ハ之ニ決當セザルコト

三 特設防護團員制服
 三 防空監視隊員制服及外套

大日本帝國憲法

凡我國民
其有權利者
其有義務者
其有責任者
其有義務者
其有責任者
其有義務者
其有責任者
其有義務者
其有責任者

第七條
天皇國體

天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體
天皇國體

大日本帝國政府

第七條、規定ニ依リ之ヲ體護シ、許可相成權借權相成度此段及通廢條也

- 一、 預防傳染服（甲種及乙種）及手袋、腕戴用布地
- 二、 防疫服（丙種）及手袋、腕戴用布地
- 三、 防護服（丁種）及手袋、腕戴用布地
- 四、 防護服（戊種）及手袋、腕戴用布地
- 五、 防護服（己種）及手袋、腕戴用布地
- 六、 防護服（庚種）及手袋、腕戴用布地
- 七、 防護服（辛種）及手袋、腕戴用布地
- 八、 防護服（壬種）及手袋、腕戴用布地
- 九、 防護服（癸種）及手袋、腕戴用布地
- 十、 防護服（甲種）及手袋、腕戴用布地

大日本帝國憲法

凡我國民、均得依此憲法、行使權利、履行義務、
凡我國民、均得依此憲法、行使權利、履行義務、
凡我國民、均得依此憲法、行使權利、履行義務、
凡我國民、均得依此憲法、行使權利、履行義務、
凡我國民、均得依此憲法、行使權利、履行義務、

大日本帝國政府

昭和十七年九月二十二日

各地方官署
第一各組

內務省
警察局長
內務省
保安局長
內務省
防空局長

昭和十七年一月二十日
行相成廣從來轉錄、
從總スル各團體、
ハ聯防防務、
申請シタル場合ニ

大日本帝國政府

也
 第十條ノ規定ニ依リ之ヲ體裁シノ計ニ相成禮制相成禮此段及禮服條

- 一、 禮制(一) 甲禮及乙禮(一) 及手袋、腕章用布地
- 二、 禮制(二) 丙禮及丁禮(一) 及手袋、腕章用布地
- 三、 禮制(三) 戊禮及己禮(一) 及手袋、腕章用布地

大日本帝國禮制

第一章 禮制ノ總論
 第一條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持シ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第二條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第三條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第四條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第五條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第六條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第七條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第八條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第九條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也
 第十條 禮制ハ國家ノ尊嚴ヲ維持スルニ由リ國民ノ禮儀ヲ肅正スルニ由ル也



大日本帝國新聞

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...

大日本帝國政府

昭和十七年七月二十二日

各部、各省、各縣、各市、各町、各村

陸工省、警備局、陸軍省、防務局

昭和十七年七月二十二日... 勸助用... 各省... 陸工省... 警備局... 陸軍省... 防務局... 各省... 勸助用... 勸助用... 勸助用...

大日本帝國政府

第七條ノ規定ニ依リ之カ實施シ、許用相成帶付徽相成廣此段及滄歷

- 一 甲種及乙種ノ及手袋、腕章用布也
- 二 防空座敷座前脚版ノ外蓋、手袋、腕章用布也
- 三 船政防護網前脚版ノ外蓋、手袋、腕章用布也

大日本帝國憲法

（Faint vertical text columns, likely the beginning of an article from the Japanese Constitution, such as Article 1 regarding the Emperor's position.)

大日本帝國新聞

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

昭和十七年續編第一二五八號

大日本帝國政府

各地方 官 署
 一、各道
 二、各府
 三、各縣
 四、各支庁
 五、各市
 六、各町
 七、各村

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

大日本帝國憲法

第一條 大日本帝國由天皇統治之
第二條 天皇神聖不可侵犯
第三條 天皇之統治權以國民之同意為限
第四條 天皇之命令以內閣之輔弼為限
第五條 內閣總理大臣及各部大臣由天皇任命
第六條 內閣總理大臣及各部大臣對議會負責
第七條 內閣總理大臣及各部大臣由議會選出
第八條 內閣總理大臣及各部大臣由議會選出
第九條 內閣總理大臣及各部大臣由議會選出
第十條 內閣總理大臣及各部大臣由議會選出

警務第七七號

昭和十七年二月二十五日

富山縣警察部長

内務省警保局警備課長殿

衣料切符制實施ニ伴フ警防團員
制服ノ取扱ニ關スル件

本年二月一日ヨリ實施ニ係ル衣料切符制

度ハ警防團員制服ニ對シ之ヲ除外スル

コトナク他ノ衣料品同様適用サルハコト

トナリタルガ元來警防團員ノ制服ハ

和十四年七月十九日内務省訓令第十三號(警



防團員服制ニ基キ警防團員ニ採用シタル
 際其制服ハ團員個人ニ於テ購入スルコト
 ナク市町村費ヲ以テ調製ノ上之ヲ團員ニ
 貸與シ居ルモノナルカ今後着用ニ堪ハ難キ
 ニ至ル等ノ事情アル時ハ一時ニ多數新調ヲ
 要スル場合モアルベク之ヲ團員個人ノ衣料
 切符ニ依リ調製セシメ且ツ其費用ヲ
 負擔セシムルコトハ警防團員ニ對スル給
 與ヨリスルモ不合理ニシテ將來制服調製上
 支障ヲ來スコトナルヲ以テ警防團員ノ
 制服ニ對シテハ衣料切符制ノ適用ヲ除外
 スル必要アリト認めラレ候條可然御高配相
 成度右意見及其申候也

本件ニ關スル照復ニハ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アリタシ

警防第一七號

昭和十七年一月二十三日

愛知縣知事 相川 勝

内務省警保局長殿

衣料切符制實施ニ伴フ警防團服ノ取扱ニ關スル件

昭和十七年一月二十日商工省令第四號織維製品配給消費統制規則公布セラレ
 即日施行ニ依リ衣料品ノ全面的綜合切符制ノ實施ヲ見タル處ナルガ同規則ノ
 趣旨ハ國民生活必需品タル衣料ニ付其ノ最低限度ノ供給ヲ確保シ且最モ適正
 ナル配給ヲ實施シ以テ國民生活ノ安定確保ト物資ノ合理的生産消費ヲ企圖シ
 タルモノト認メラルモ同規則ノ施行ニ依リ從來特殊ノ取扱ニ依リ配給セラ
 レツアル警防團服モ全規則第十一條第一項ノ規定ニ基キ商工省告示第五十
 號ノ指定品目ニ 三 洋服類ノ (三) ノ團服ニ一應ハ包含セララルモノニ非
 ズヤト思料セラレ候ヘ共、警防團服ヲ右ニ包含セララルモノトセバ警防團員
 ガ其ノ本来ノ使命達成ノ爲警防業務遂行ノ場合ノ着用スルモノナルヲ以テ

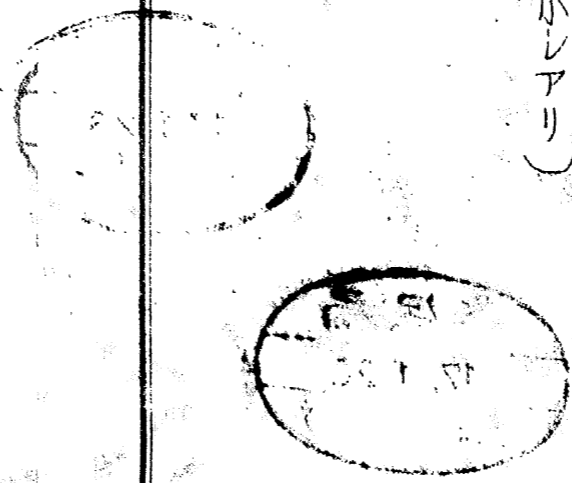
警備課
 17126
 第48号

17.1.26
 警備 173

團員個人ノ家庭用必需衣料購入ニ甚大ナル影響ヲ與フルモノナルハ言フ俟タ
ガル處ニ有之候ニ付テハ左記各號ノ警防團服ハ全規則ノ適用ヲ受クルモノナ
リヤ否ヤ何分ノ御指示相仰度此致及稟申候也

記

- 一、從來本省ヨリ割當配給ヲ受ケツ、アル警防團(甲乙種)制服
- 二、スフ、混毛、混絹其他一般市販用ノ生地ニ依リ業者ガ各個ニ受註販賣セ
ラレツ、アル警防團(甲種)制服
- 三、刺子外套、刺子防火カブト、及刺子法被
- 四、警防團用外套(本縣ニ於テハ制式ヲ定メ告示レアリ)



秋發警防第三四〇號

昭和十七年二月廿七日

秋田縣警備部長

内務省警保局警備課長 殿

警防團被服特配斡旋方依頼ノ件

昭和十六年度本縣警防團乙種制服生地トシテ全年四月十五日付一六機局第
二、一七二號商工省織維局長名通牒ヲ以テ一、八五〇反ノ配給ヲ受ケ希望
警防團ニ付シ夫レ夫レ配分ノ上織維製品小賣組合秋田縣聯合會ニ於テ加工
既ニ調製シタルガ未ダ引渡前本年一月二十日織維製品消費統制規則ノ實施
トナリタル爲メ左記一部警防團ハ衣料切符ナクシテ之ヲ受領シ得ザルニ至
リ服裝整備上支障ヲ生ジ居ルノ實狀ニシテ之眞ニ止ムヲ得ザル特別事情下

警備 17.3. 第16

5

合議局及受送月												主管局及受付月											
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受	送	受
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

昭和十六年二月五日
 局長
 主任
 平月日
 空訓傳中
 空訓傳中
 空訓傳中

丙

施行 二月十日

計	豐川警防團	鴻西警防團	毛馬内警防團	警防團名
四五五	五〇	一八〇	二二五	總 乘
五〇	五〇			數 團
五〇五	一〇〇	一八〇	二二五	計

記

二有ヲ以テ關係方面ニ交渉ノ上特ニ無切符配給相成機幹旋相成度及御依頼
 願候也